



三春中学校だより

第 27 号

発行日 令和 元年 8 月 30 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【夏休み明け、新たな目標をもって！ ～全校集会で確認しました。～】

学習、部活動に精を出し、家族の一員、地域の担い手として大活躍した夏休みが明けました。

8月26日(月)には夏休み明けの全校集会をもちました。生徒会執行部の仕切りのもと、各学年代表からの発表、生活面、健康面で心がけること、校長から、諸連絡の順で会は進みました。

1年生代表の生徒さんからは、“いろいろな『初めて』を経験し、たくさんのことを学んだ。集中すること、積み上げる努力などの大切な学びをみんなと一緒にこれからの学校生活に生かしていきたい。”2年生代表からは、“計画的に生活し、充実した夏休みだった。そこから生まれた時間を有効に活用することができた。一方で、生活リズムを整えることの大切さも学んだ。3年生に安心して卒業していつてもらえるよう、今度は、三春中を引っ張っていく立場として2学年全体がチームとなって取り組んでいきたい。”3年生代表からは、“これまでクラブチームで夢の実現にむけ努力してきた。これからは受験生として好きなことも一時我慢するなどして勉強にあたらなくてはならない。そのためのみんなが学べる環境づくりに努めたい。また、最後の文化祭成功のため、3年生として自分たちでしっかり考えて文化祭を成功に導きたい。”などの発表が聞かれました。

生活面での齋藤先生のお話には、時間と場を有効に活用し、あいさつ、公共施設の使い方等、みんなが過ごしやすい学校環境を心がけよう。健康面では、歯科を受診し、治療が必要な生徒が歯科検診受診者の95.1%いる。治ることはないので早期の受診を心がけたい。また、すぐに発育測定があるので、自身の健康状況の把握に努めてほしいというお話がありました。

その後、文化祭実行委員会の役員から、三春中文化祭『HARU FES』のテーマが発表されました。フロアにいる各学級から人選された文化祭実行委員も紹介され、生徒会・学校の一大行事文化祭『HARU FES』の大成功にむけ活躍を心より期待します。



【英弁、合唱、支部駅伝、みんな、がんばれ！ ～激励会で全校応援しました。～】

夏休み前から子どもたちは、英語弁論や合唱コンクール、支部駅伝大会にむけ練習に一生懸命取り組んできました。8月26日(月)の5校時には、それぞれの大会に出場するみなさんを全校生徒で激励する会を催しました。

まずはじめは、田村地区英語弁論大会に参加する3名の生徒のみなさんの英語弁論の披露でした。身振り、手振りを交えた、聞く相手を意識したすばらしい弁論でした。次は、合唱部の演奏披露でした。前にも触れましたが、美しい音楽にあふれた学校づくりは私の夢でもあります。前列・中列・後列の3列にわたる合唱部のみなさんが、心一つに合唱を仕上げ、歌い上げようとしている姿は圧巻でした。最後は、これまで何度も学校だよりで取り上げてきた駅伝部のみなさんの紹介でした。酷暑の中、歯を食いしばり、粘り強く、懸命に走り込む姿は、とても心を打つ姿でした。今年度は男女1チームずつの参加となりますが、顧問の先生と共に作り上げた特設駅伝部です。その結束はいつもにまして強いことと信じます。走るは一人ひとりですが、チームとして全員が一丸となって大会に参加してこれることと思います。

がんばること、続けること、粘ること、歯を食いしばること、へこたれること、疲れた姿などは、思春期の子どもたちにとって何となく敬遠されがちな中身ですが、世の中、一見格好悪く見えるものの中にこそ、とても大事で、かけがえのないものが隠されているのかもしれない。何はともあれ、英弁にしろ、合唱・駅伝にしろ、そのことにこれまで懸命に取り組んできたという事実自体は決して

消えることなく、やり遂げた選手の心の中に宝物として残り続け、人生の壁にぶつかったときも心の拠り所として生きてきます。すばらしい子どもたちに心より賛辞を贈りたいと思います。



【“挑戦”！ ～やめることも、やってみるのも、最高をめざすのもそれぞれに大切です。～】

8月29日(木)の午後4時15分、校長室に5人の3年生が集まってくれました。3年生の社会科の授業の中で取り組んだ『人権』に関する学習をしたまとめとして文章にしたものを3年生分すべて読ませていただきました。その文章を読むと、これまで人権についてはあまり考えたことがなかったという人から、自分が体験した中で抱いた人権に関する考えをしっかりとまとめているものなどさまざまでした。その中で、校長室に集まった3年生の5つの文章は、国語科教員でもある私の興味を強く引きつけたものでした。この時期の3年生と言えば、勉強、宿題、塾、家の手伝い、地域の一員としての活動など、さまざまな活動の主体となる存在ですので、集まった5人の生徒さんには、すばらしい文章であること、そして、忙しい立場だから、やらなくとも何の問題もないことを伝え、1枚の作文構想表を渡しました。次の日は支部の駅伝大会なので、やってきた人は校長室の机の上に置いておけば大会から帰って目を通し、作品作りへのアドバイスと共に、一緒に作品作りに取り組もうと伝えました。次の日、大会から帰った校長室机の上には3枚の作文構想表と2つの手紙がのっていました。(続く)

【マナーと思いやり！ ～スクールバスで学びました。～】

スクールバスは、日中は、町の公共交通機関として利用されます。学校では日頃から、自分のスクールバスという意識と共に、卒業して公共の交通機関を利用する時にみんなが気持ちよく利用できるよう指導をしています。きれいに大切に使用すること、譲り合って思いやりのあふれた車内にするなど、子どもたちは将来役に立つであろうことをスクールバスの中でたくさん学んでいます。例えば、泥がついた靴の場合、乗車の際にそのままでは嫌がられ、運転手さんにも迷惑をかけてしまうのは自家用車と同じです。また、車内での大声での会話は、自分たちは楽しくても他の人にとっては耳障りなこともあります。席を譲り合うことも思いやりの心がもとになります。みんなにとって気持ちのよい公共交通機関となるよう、利用する人もしない人もスクールバスを通して学んでいきましょう。

